

野川の水量確保対策

東京都多摩環境事務所環境改善課 飯田輝男

1. はじめに

都内の中小河川の水量は、減少の一途である。水のない河川の代表例では、残堀川、空堀川があげられる。野川も枯渇の恐れがあった。そこで、都は湧水に注目し、湧水分布、河川類型調査、湧水の涵養域調査（野川は8箇所）を行うとともに、平成2年から湧水保全モデル事業を開始し、湧水の保全を推進、現在、水循環再生事業を行っている。

2. 水量確保対策

1) 雨水浸透ますの設置

東京都環境局、都市計画局による各区市の雨水浸透ますの設置に対する補助、大規模建物建築時の指導
新築・改築時における小金井市、三鷹市等の指導
雨天時越流対策の推進

2) 姿見の池の復活

埋立られていた「姿見の池」を野川最上流部に復活した。平成12年度に恋が窪用水路を通じて野川へ接続した。

3) 未利用地下水の導入

JR武蔵野線トンネル地下水が平成14年3月30日から、野川水系に戻ってきた。ただし、水量は日量170トンから6,000と不安定である。導水量は水路が小さいため、日量3,000トンまでである。平成14年10月18日現在、姿見の池の水路へ日量3,000トン流入している。

3. 現在の状況

水質変化；野川では天神森橋の水質の改善が著しいが、水量が少ないと水質は悪化する傾向がある。しかし、琥珀橋の水質は良好である。

水量の推移；水量はここ数年下げ止まり、水量増の兆しがみえてきたと思われる。流水の見られない地域があり、小金井市で、大きく水量が減少する場所があり、粘土張りや建設局が実施している。

涵養域に浸透ますを設置している真姿の池は安定して流れている。保全していない東経大の湧水、JR武蔵野線の湧水量は不安定である。

雨天時には大量の汚水が流れ、その負荷は野川のBOD全負荷量の90%以上に達している。

4. 今後の課題

市境の鞍尾根橋では、清浄な流水が見られていることから、小金井市における野川の流水状況の再確認が必要である。野川流域では既設住宅に対し約4万基の雨水浸透ますを補助の予定であるが、新築・改築時に雨水浸透ますの設置を区市の指導で市民等に協力を求める必要がある。

野川支流の仙川への未利用地下水の導水事業の推進が必要である。

今後、各河川への地下水の湧出量を増加させるためには、下水管に直接流れ込む地下水を自然に戻す努力が重要である。

図1 野川の流水状況

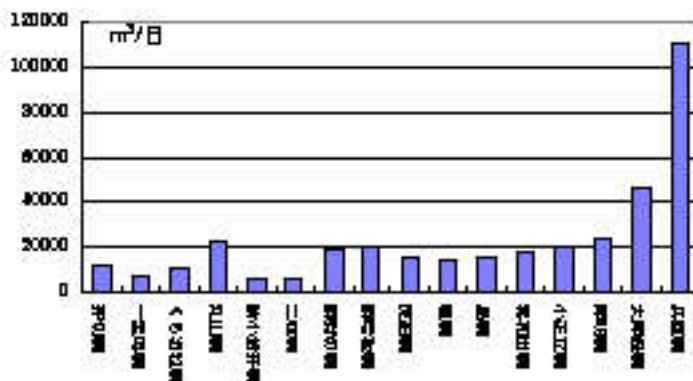


写真 姿見の池の復活



図2 水質測定結果

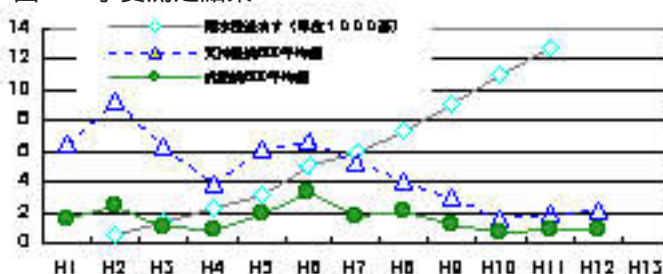


図3 水量測定結果

